

芭蕉『おくのほそ道』の真価を考える

芭蕉は俳諧を不易な文芸に高め、古典となることを願って旅から4年後『おくのほそ道』を書き始め、半年以上推敲を繰り返してなくなる年に完成した。芭蕉の自筆本に基づいて作品の構成と主題を明らかにするとともに、日本文化史における意義を考える。

- 【日 程】 10月16日(日)～11月6日(日) 14:00～15:30
 【会 場】 幸栄公民館 視聴覚室
 【定 員】 35人(応募者多数の場合には抽選となります)
 【受 講 料】 500円(資料代)※第1回目において徴収します。

第1回 10月16日(日)	俳諧の連句と芭蕉の生き方	放送大学特任教授 魚住 孝至
第2回 10月23日(日)	奥州の旅と「不易流行」	
第3回 10月30日(日)	『おくのほそ道』の成立～構成と主題	
第4回 11月6日(日)	芭蕉の終焉、『おくのほそ道』不易の古典へ	

- 【募集期間】 9月8日(木)～9月29日(木)
 【申込方法】 往復はがき(期間内必着)・インターネット(右記の二次元コードを読み取り)
 (詳細は2ページを参照ください)
 詳細は幸栄公民館にお問い合わせください。



幸栄公民館
 所在地 川口市幸町3-8-33
 電 話 048-251-7242
 交 通 JR川口駅東口から徒歩約6分